

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 4 区分

【発行日】平成21年12月24日(2009.12.24)

【公開番号】特開2008-248392(P2008-248392A)

【公開日】平成20年10月16日(2008.10.16)

【年通号数】公開・登録公報2008-041

【出願番号】特願2008-125524(P2008-125524)

【国際特許分類】

C 2 2 C 38/00 (2006.01)

C 2 2 C 19/07 (2006.01)

B 2 2 F 1/00 (2006.01)

C 2 2 C 33/02 (2006.01)

【F I】

C 2 2 C 38/00 3 0 3 S

C 2 2 C 19/07 C

B 2 2 F 1/00 W

C 2 2 C 33/02 G

【手続補正書】

【提出日】平成21年11月5日(2009.11.5)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

質量 % で、

C o : 4 0 ~ 6 0 %、

V : 1 . 5 ~ 3 . 5 %、

B : 1 0 ~ 4 0 %、

S i : 0 . 0 1 ~ 1 . 0 0 %、

M n : 0 . 0 1 ~ 1 . 0 0 %、

C : 0 . 1 % 以下、

残部 F e および不可避的不純物元素からなる F e - C o - V 系分析機器用合金材料をガスアトマイズまたは水アトマイズ法により作製し、該合金材料を高密度成形法により固化成形し、該固化成形した合金材料の任意の部位 10 箇所 (1 m m × 1 m m) の視野内における結晶粒径の平均値 (D a) がいずれも 5 ~ 1 0 0 μ m であり、かつその 10 箇所における D a の標準偏差が 10 個の D a の平均値に対して 10 % 以下であることを特徴とする F e - C o - V 系合金材料の製造方法。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

その発明の要旨とするところは、

質量 % で、C o : 4 0 ~ 6 0 %、V : 1 . 5 ~ 3 . 5 %、B : 1 0 ~ 4 0 %、S i : 0 . 0 1 ~ 1 . 0 0 %、M n : 0 . 0 1 ~ 1 . 0 0 %、C : 0 . 1 % 以下、残部 F e および不

可避的不純物元素からなる F e - C o - V 系分析機器用合金材料をガスアトマイズまたは水アトマイズ法により作製し、該合金材料を高密度成形法により固化成形し、該固化成形した合金材料の任意の部位 10 箇所 (1 m m × 1 m m) の視野内における結晶粒径の平均値 (D a) がいずれも 5 ~ 1 0 0 μ m であり、かつその 1 0 箇所における D a の標準偏差が 1 0 個の D a の平均値に対して 1 0 % 以下であることを特徴とする F e - C o - V 系合金材料の製造方法にある。